

令和2年度 北海道教育大学函館校

養護教諭特別別科

一般入試問題

公衆衛生学

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子を開かないこと。
- 2 試験中に、問題冊子の印刷不鮮明および解答用紙の汚れ等により交換を必要とする場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 受験番号は、解答用紙のそれぞれの指定欄に記入すること。
- 4 解答は、解答用紙の指定欄に記入すること。
- 5 解答用紙2枚を提出し、問題冊子は、試験終了後、持ち帰ること。

問1. 以下の文章中、正しいものの番号を記入しなさい。（20点）

1. 産業革命後、深刻な環境衛生上の問題が生じたイギリスにて疫学を学んだ A (①高木兼寛 ②森鷗外 ③北里柴三郎 ④長与専齋 ⑤貝原益軒) は、1880年に帰国後、東京海軍病院長となり、海軍乗組員の食事を工夫し、壊血病や脚気の発生予防に成功した。
2. 明治期初頭に欧米を視察した B (①高木兼寛 ②森鷗外 ③北里柴三郎 ④長与専齋 ⑤貝原益軒) は、日本に欧米の衛生行政を導入し、1875年に内務省衛生局長となって活躍した。
3. 1880年代にコレラ菌を発見したコッホの下に、後にペスト菌を発見し、また破傷風の治療法を開発するなど感染症医学の発展に貢献した C (①高木兼寛 ②森鷗外 ③北里柴三郎 ④長与専齋 ⑤貝原益軒) が学んだ。
4. 「近代衛生学の父」と呼ばれるペッテンコーフェルの下に、陸軍軍医であり、後に小説『高瀬舟』を著した D (①高木兼寛 ②森鷗外 ③北里柴三郎 ④長与専齋 ⑤貝原益軒) が学んだ。
5. 1713年に刊行された、E (①高木兼寛 ②森鷗外 ③北里柴三郎 ④長与専齋 ⑤貝原益軒) の『養生訓』には、個人が、どのように生活を送ることで、健康を保つことができるかについて詳しく記載されている。

問2. 以下の各文章について、正しい場合には○を、正しくない場合には×を記入しなさい。（20点）

- ① 栄養指導は一次予防である。
- ② 職業病予防は二次予防である。
- ③ 在宅機能訓練は三次予防である。
- ④ 平成29年における日本の死亡数について、死因順位第一位は、男女とも老衰である。
- ⑤ 結核、コレラ、マラリアなどは、新興感染症である。
- ⑥ プライマリヘルスケアは、1978年の「アルマ・アタ宣言」で提唱された理念である。
- ⑦ 毒素型の細菌性食中毒に対しては、抗菌薬が有効である。
- ⑧ 感染型の細菌性食中毒に対しては、食前加熱による殺菌により予防可能である。
- ⑨ 脂溶性ビタミンは、過剰に摂取しても尿中に排出される。
- ⑩ 病原微生物に感染しても、明らかな症状を呈さない場合があり、不顕性感染と呼ぶ。

問3. 以下の空欄を適切に埋めなさい。同じアルファベットの（ ）には同じ語句が入ります。（30点）

1. 正常な空気組成の割合は、不活性ガスである A（ ） が約 78% を占め、次いで酸素が約 21% 存在している。空気中の酸素濃度が 18% 未満である状態を酸素欠乏という。
2. 地球温暖化の主要因とされ、室内空気汚染の指標ともされている空気成分は B（ ） である。大気圧下での B（ ） の空気組成割合は 0.04% である。また C（ ） は、空気中に混入する異常成分であり、有機物が不完全燃焼した場合に発生し、無色、無臭、無味、無刺激性であることから、確認が困難であり、人間の体内で赤血球のヘモグロビンと結合しやすく、その有害性は極めて高い。
3. 2001 年に WHO は、それまでの国際障害分類を改訂し、D（ ） を定めた。国際障害分類では、障害の有無によって階層化し、E（ ）、F（ ）、G（ ） の 3 つに分類することで、「何ができないか」を判断するものであった。その後、障害があっても「何ができるか」というポジティブな面からの分類が検討されることとなり、D（ ） が WHO 総会にて採択された。（※E、F、G は順不同）
4. H（ ） は、障害を有しても、有さない状態と同様の生活ができることをめざす概念であり、本来は「常態化」という意味を持つ。具体的には、障害の原因となる疾患の治療をめざすのではなく、物的、社会的障壁の除去を目的とする I（ ） や、障害の有無にかかわらず快適な環境を創造する J（ ） の考え方に基き、社会的環境を整備することが挙げられる。

問4. 以下の文章は、日本の人口静態統計に関する記述である。適当な語句と考えられるアルファベットを語句群から選び、文章を完成させなさい。①、②、③、④、⑤は語句群Ⅰから、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩については語句群Ⅱから選択すること。尚、同番号を付してある（ ）には同じアルファベットが入ります。（20点）

年齢別人口構造を把握する上で、一般に年齢3区分別が利用される。15歳未満を①（ ）、15歳以上65歳未満を②（ ）、65歳以上を③（ ）と呼ぶ。また、①（ ）と③（ ）を合わせて④（ ）と呼ぶ。

①（ ）指数は、

$$\text{①（ ）指数} = \frac{\text{①（ ）}}{\text{②（ ）}} \times 100 \text{ で算出される。}$$

③（ ）指数は、

$$\text{③（ ）指数} = \frac{\text{③（ ）}}{\text{②（ ）}} \times 100 \text{ で算出される。}$$

④（ ）指数は、

$$\text{④（ ）指数} = \frac{\text{④（ ）}}{\text{②（ ）}} \times 100 \text{ で算出される。}$$

これらは、働き手世代による、子供や高齢者の扶養負担を示す指標であるが、高齢化の進行状況を示す指標である⑤（ ）指数は、

$$\text{⑤（ ）指数} = \frac{\text{③（ ）}}{\text{①（ ）}} \times 100 \text{ で算出される。}$$

2016年10月時点の、日本の総人口は⑥（ ）人。①（ ）指数は⑦（ ）。③（ ）指数は⑧（ ）。また④（ ）指数は⑨（ ）。そして⑤（ ）指数は⑩（ ）。

語句群Ⅰ

A：高齢 B：老年化 C：老年人口 D：人口静態 E：従属人口 F：人口動態
G：生産年齢人口 H：人口転換 I：年少人口 J：人口ピラミッド

語句群Ⅱ

K：1億1693万 L：1億2693万 M：1億3693万 N：20.6 O：30.6 P：45.2 Q：55.2
R：65.8 S：75.8 T：119.2 U：219.2 V：319.2

問5. プライマリヘルスケアについて、説明しなさい。（10点）